

中学生の活動イメージ

年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9～
国のガイドライン	国（スポーツ庁・文化庁） 休日部活動の移行 改革推進期間 R5～R7			地域クラブ活動の充実 できるところから平日も移行	
市の方針	部活動（平日・休日） 地域クラブ活動へ参加			休日の部活動は行わない（R 7 度末廃止）	
休日の活動	部活動 地域クラブ活動へ参加			地域クラブ活動へ参加 学校の実情に応じて新チーム開始時まで 活動することができる	
平日の活動	部活動 地域クラブ活動へ参加			部活動 地域クラブ活動へ参加	

※部活動や地域クラブ活動への参加は自由です



中学生はこのようなスケジュールで活動していくんですね。でも、まだわからないことがあるので教えてください。

わかりました。

委員や市民の方からも質問があったので、まとめてお答えします。



Q1 令和8年4月から、休日の部活動はなくなるのですよね？

A1 はい、なくなります。でも、平日の部活動は今までのように継続されます。



Q2 自分の住んでいる地域では、どのような活動ができるのでしょうか？

A2 これから、それぞれの地域で活動するクラブチームや民間のチーム、地域団体や自主グループの皆さんに、今回の趣旨をお伝えし、中学生が参加可能な活動を児童生徒や保護者の皆さんに紹介していく予定です。



Q3 紹介された後、どのような手続きが必要になりますか？

A3 紹介された活動の中から児童生徒の皆さんには自分が参加したい活動を選んでいただきます。その際、平日の活動と異なる競技等を選択することも可能ですし、どの活動にも参加しないことも可能となります。手続きは、各クラブ等の募集要項等を見ていただき、各自で申し込むようになると思います。



Q4 活動に参加する際、費用の負担や活動場所への送迎はどのようになりますか？

A4 基本的に地域クラブや民間チームの活動への参加に係る費用は受益者負担となります。活動場所への送迎も会場により異なりますが、各家庭での対応になると思います。



Q5 大会への参加はどのようになりますか？

A5 日本中体連や県中体連の大会は、令和5年度から学校の部活動だけでなく地域クラブも出場できるようになりました。しかし、競技によっては条件が異なりますので、日本中体連ホームページ等で確認をお願いします。令和8年度以降については、随時「ドリーム通信」を通してお知らせしていきます。



～可能性を探り未来へつなぐ～

ドリーム通信 vol.2

多様なスポーツ・文化芸術活動の機会を広げよう



学校内から福井市全部がみんなのフィールドに

「令和7年度末をもって休日の部活動は行わない」・・・市の方針決定

第2回地域クラブ活動推進協議会では、休日の部活動に関する今後のスケジュールや今後のビジョンについて協議し、その後の定例教育委員会において国の改革推進期間に合わせ「令和7年度末で休日の部活動を廃止する」方針が決定されました。

ただし、令和8年度は新チーム発足時までには各学校の実情に応じて活動することができることも確認されました。今後は、中学生が地域や学校の実情に応じて多様な地域クラブ活動へスムーズに参加できるように、地域・各種団体・学校・市が協働して諸課題の解決に取り組んでいきます。

部活動の現状と改革の視点

少子化の影響で、部活動数や部員数は減少の一途をたどっています。今後、数年間でさらに各学校で生徒数が減り、今以上に「単独校ではチームが組めない」「やりたい活動の部が設置されない」「専門的に指導できる顧問がいない」といったケースが増加していきます。

今後、これまでの部活動の仕組みでは、生徒や保護者の皆さんが望むスポーツ・文化芸術活動の継続はますます困難になると予想されます。

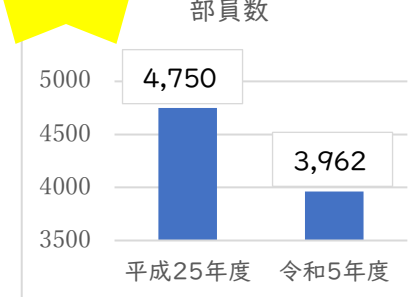
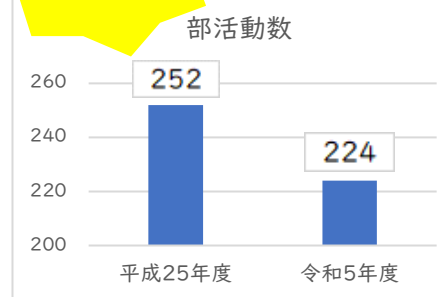
そのため、現在の部活動に代わる新たなスポーツ・文化芸術活動ができる体制を構築していく必要があることから、全国的にも「部活動という概念自体をなくす」「全て作り替える発想」などの視点で改革が進められています。

本市においても、この方針に沿って各関係諸団体等と連携して地域クラブ等への移行を進めていきます。

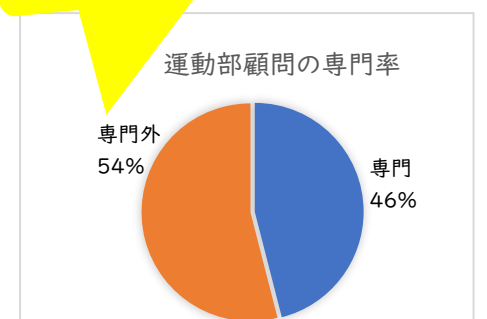
部活動数は
11.1%減少

10年間で

部員数は
16.6%減少



半数以上の顧問が専門外種目の指導にあたっているため、大きな負担に！



生徒・教員の部活動や地域クラブ活動に関する意識は??

国のガイドラインの趣旨を踏まえ、本市においても「地域クラブ活動推進協議会」を設置し、その在り方を検討する際の参考とするため、休日の部活動や地域クラブ活動に関する生徒や教員の意向を把握するアンケート調査を実施しました。

<対象者> 市内公立中学校の1・2学年生徒および全教員
<期 間> 生徒:令和5年12月22日～令和6年1月11日
教員:令和5年12月22日～令和5年12月28日
<方 法> WEB 回答
<回答数> 生徒:3,730 / 4,356 人(回答率85.6%)
教員: 465 / 493 人 (回答率94.3%)

全ての調査結果は、右記の QR コードからご覧いただけます。
地域移行に関する情報(市 HP)➡



地域クラブ活動とは…
地域にあるスポーツクラブや文化芸術活動のことです。
文化芸術活動には公民館の各種活動やまちづくり活動、ボランティア活動などを含みます。

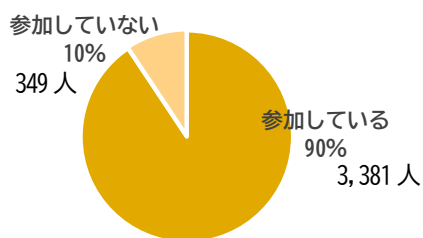


生徒(1・2年生)



この通信では、生徒・教員それぞれの調査結果の一部をご紹介します。
表は回答数の多かった項目を掲載しています。

Q あなたは現在、部活動に参加していますか(全員回答)



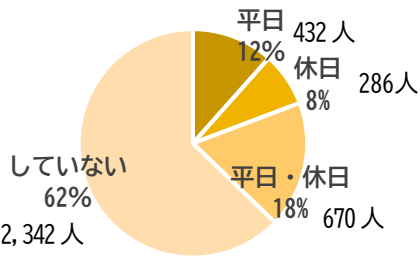
部活動の参加は任意ですが、90%の生徒が参加しています

Q 現在参加している部活動は(参加している人のみ回答)

部活動名	人
吹奏楽部	447
バレーボール	342
バドミントン	285
ソフトテニス	281
美術	263

部員数は吹奏楽が最も多く、次に運動系の部活が続き、美術部も多いことがわかります

Q あなたは地域クラブ活動に参加していますか(全員回答)



地域クラブ活動へは、既に約40%の生徒が参加しています

Q その部活動を選んだ理由は
(参加している人のみ回答)

選んだ理由(複数回答)	%	人
その活動に興味があった	24	2,002
学校にある部活動から選んだ	12	1,024
体力や技術を身につけたい	11	953
他に入りたい部がなかった	8	706
小学校からの活動を継続したい	8	681

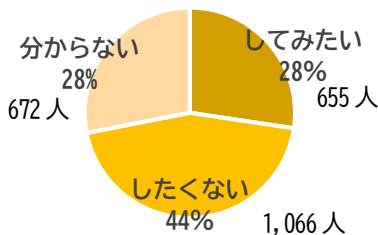
活動への興味が最も多い反面、学校にある部や他に入りたい部がない等も上位にあります

Q 参加している地域クラブ活動は
(参加している人のみ回答)

活動名(複数回答)	人
書道・習字	200
ピアノ	152
英会話	133
サッカー	111
バレーボール	80

書道やピアノなどが多く、次にサッカーなど運動系のクラブが多いようです

Q 休日に学校での部活動がなくなった場合、「地域のスポーツ・文化クラブ活動」に参加してみたいですか



参加してみたい生徒は約30%で、約40%は、現時点では参加したくないと思っているようです

Q 休日に参加してみたい地域クラブ活動は
(参加してみたいと回答した人のみ回答)

活動名(複数回答)	人
バドミントン	118
バレーボール	90
サッカー	74
ヒップホップダンス	71
バスケットボール	69
ギター	67
吹奏楽	63

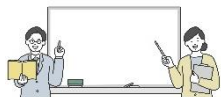
バドミントン等の運動系やヒップホップダンス、ギター等、部活動にない活動も多いようです

Q 地域クラブ活動に参加を希望しない理由は
(参加したくないと回答した人のみ回答)

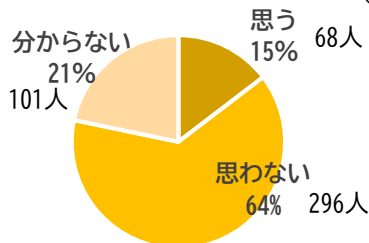
理由(複数回答)	%	人
休日は他にやりたいことがある	35	714
休日まで活動したいと思わない	34	698
参加する費用が必要だから	6	126
自分にあったクラブ選択に不安	5	101
他校生徒との人間関係の構築	4	85

多くの生徒が、休日は自分のやりたいことや別のことで自由に過ごしたいと考えているようです

教員



Q 休日に中学生が地域クラブ活動で活動する場合、あなたは、それらの指導者として関わろうと思いますか
(全員回答)



指導者として関わりたい教員は15%で、約60%が指導者として関わりたくないでした

Q 地域クラブ活動の指導者として関わりたいと思う理由は
(関わりたいと回答した人のみ回答)

関わりたい理由(複数回答)	%	人
自身の経験を生かしたい	22	55
協力する喜びを味わわせたい	12	30
その活動に興味がある	10	25
子どもたちの人間性を高めたい	9	23
指導者資格を生かしたい	6	16

自身の経験や指導者資格を生かしたいことや、子どもたちの人間性等を高めたいなどが多かったです

Q 地域クラブ活動の指導者として関わりたくない理由は
(関わりたくないと回答した人のみ回答)

関わりたくない理由(複数回答)	%	人
家族や自分の時間を確保したい	29	251
部活動同様の負担となる	20	171
専門的指導力に不安がある	18	157
精神的負担が大きい	14	119
休日の活動体制がわからない	9	67

家族や自分の時間を確保したい、部活動同様の負担となる、専門的指導力に不安があるなどが多かったです

Q 生徒が休日の活動を地域で行うとしたら、どのようなメリットがあると思いますか
(全員回答)

メリット(複数回答)	%	人
教員の働き方改革	38	368
生徒が専門的指導を受けられる	30	293
他校の生徒や異年齢集団と活動できる	17	164
地域の活性化につながる	12	117

専門的な指導や異年齢集団との交流、地域の活性化等、生徒の視点に立った回答も多かったです